

十島村教育委員会だより 平成24年2月号

変わりがたカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

わが校の教育活動紹介

～「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動を通して」～

悪石島小・中学校長 坪内 四男

本校の教育目標に「心身ともに健康で、自らの目標を定めて実践する知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで思いやりのある、たくましい子どもを育成する」を掲げて、児童数5名、生徒数2名、計7名、教職員8名で教育活動に取り組んでいます。

教育にはよく「不易なもの」と流行なものがあるといわれます。規範の意識、個人の尊重、他人に対しての優しさや思いやり、生命を大切にすること、自然を愛する心、郷土を愛する心等々豊かな人間性を育むことはこれまでも、そしてこれからも決して変わるものではないと思います。

本校の児童・生徒像として、「心豊かで明るく思いやりのある子ども（徳）」、「良く考え進んで学習する子ども（知）」、「最後までやり抜くやる気のある子ども（体）」の3点を目指しています。やはり学校の一番の願いとしても、一人一人の子どもが心豊かで、明るく元気にそして、他者には思いやり・優しさをもって、自分の夢や希望に向かって邁進していってほしいと思っています。

特に、子どもたちは中学校を卒業と同時にこの悪石島からも旅立っていきます。私たちの郷土：悪石島そして、十島村に誇りを持ち、郷土の伝統や文化を大切にすること、平和な日本社会・国際社会へ貢献できる人材を育成していかねばならないと思っています。

本校ではその具体的な教育活動として、郷土の素材を取り上げた「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動」に取り組んでいます。

1 対馬丸撃沈事件について

1941年（昭和16年）12月に始まったアジア太平洋戦争は、同年夏頃から日本軍の敗戦が続きました。

1944年（昭和19年）、米軍との沖縄戦が開始されると予想した日本軍は、奄美大島や徳之島、沖縄県の住民を島外に疎開させることを決めます。対馬丸は学童、引率教員、一般疎開者、船員等1788人を乗せて長崎を目指して出航しました。

しかし、対馬丸は悪石島の北西10キロメートルの地点で米軍による魚雷を受け、沈みました。その時に学童を含めた1418名という多くの方々犠牲になりました。

その対馬丸沈没事件から18年経った1962年（昭和37年）に多くの犠牲者を弔う慰霊碑がこの悪石島に建立されました。

2 「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動」について

慰霊碑の管理は、当初島民で行っていましたが、現在は学校が「平和教育・人権教育」の一環として清掃活動を行っています。総合的な学習の時間に「あおぞら活動」と位置付け、年間を通して「命の尊さ」「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」等を考える時間としています。

毎月第3金曜日6校時「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動」を行い、また、毎年8月2日には「対馬丸の日」を設定し、島民全員での清掃活動や献花・焼香等で慰霊をしています。

「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動」の主な内容は、担当教職員（輪番）が平和や人権等についての話をします。その後、慰霊碑の清掃を行い、清掃後に線香を供えたり、平和に関する歌を斉唱したりしています。子どもたち一人一人に、本時の活動について振り返る時間に感想を発表するようにしています。

この「あおぞら活動：対馬丸慰霊碑清掃活動」を通して、この悪石島に建立された意義深い対馬丸慰霊碑を大切に守り、そしてこのような悲惨な戦争を二度と起こしてはならないと決意し、平和な日本、そして平和な国際社会を希求する意識・意欲の高揚を図っていきたいと思います。

【 「一遇を照らす」十島村の教育 】



情報発信の場として十島村教育委員会庁舎一階玄関に各学校の生き生きした教育活動（「学校だより」や「児童生徒会だより」等）に関する掲示物を貼付しています。是非御覧ください。

【 お友達中之島小学校に転入！ 】

1月に中島大志さんが、中之島小学校1年生として東京から転入しました。大志さんは、今、仲間や先生方と楽しく学校生活を送っています。これまでに比べ不自由なこともあるかもしれませんが、不自由さの中のすばらしさをぜひ味わってほしいものです。

【 入賞おめでとうございますー持ち味を生かす子どもたちー 】

第27回鹿児島県ゆめ立体・彫刻展

南日本放送賞・肥後葵衣（口之島中3年）

特選・山元柊星（口之島小2年）・日高裕星（口之島小6年）・大隈翔太（口之島中2年）

入選・山元悠希（口之島小5年）・永田征也（口之島中1年）

第3回8回環境かべ新聞コンテスト

優秀賞 平島小学校 「守れ自然平島」

【 村内小・学校卒業式予定 】（ ）内は卒業生

3月6日（火）口之島校（小1人）（中1人）

中之島校（小1人）（中1人）

3月13日（火）諏訪之瀬島分校（小1人）（中2人）
平島校（中1人）

3月17日（土）小室島分校（小1人）（中2人）

3月22日（木）宝島校（小1人）（中1人）

【 子どもたちの 作品 】（南日本新聞「若い目」<H24.1.18>より）

おなべパワー 宝島小学校 1年 平田 一華
3学期になって、わたしはかぜをひきました。学校でもマスクをしています。学校からかえると、「みんなかぜがみだから、おなべにしようか」というお母さんの一言で、かぞくみんなでおなべのじゅんぴをはじめました。

お父さんは、つってきた大きなさかなをいつものようにさばいてくれました。お母さんは、台どころでだしをとりました。その間、わたしとお兄ちゃんは、肉だんごをつくりました。

つくりおわると、だしの中にたくさん肉だんごを入れました。5分ぐらいで、肉だんごがつつぎつつぎにうかんできました。

せきが出たのでのどがいたかったけど、おさかなをたべたらいたさをわすれてしまいました。のどのいたさがなくなるぐらいのおさかなパワーでした。みんなむ中でたべました。かぜがなおるぐらい、おいしいおなべでした。ごちそうさま。

【 永年勤続表彰 】

口之島小・中学校日高松行校長先生は、永年教育界にあって本県教育振興のためひたすら尽力され幾多の業績を残されました。その功績が讃えられ、県教育委員会から感謝状が贈られました。

なお、校長先生は、母校口之島小学校教諭として3年間、最後の4年間を母校で校長として奉職されました。

前中之島小・中学校職員の土岐智恵美さんは、25年間同校の給食調理員として勤務され学校給食の普及・充実・向上に顕著な功績が認められ、県学校給食から表彰を受けられた。

【 十島村の小・中学校からのメッセージ 】

悪石島小・中学校 教頭

片野田 広一

「小・中併設極小規模校」という言葉を聞き、子どもの数が少なく、職員室は小・中同じで、校舎が違うのだろうかというイメージでした。教育に携わる者としての不安は、特にありませんでした。

「小・中」連携とよく言われますが、それが教育活動の中で自然なものとなっています。また各教科において、小・中の授業を相互に参観することも可能なので「各教科における系統」を十分理解することができます。もっと早い段階で本校に赴任していれば、自分の指導法も変わっていただろうと思います。

以前赴任したことのある先輩から悪石島の話聞いていたので、それほど不安はありませんでした。たとえ聞いていなかったにしても、島民の方々が温かく迎えて、そして奇策に声をかけてくださるので、地域に解け込むのにそう時間はかかりませんでした。

これまでの生活から比べると、不便を感じることはありますが、「住めば都」で自然と慣れてきます。日常生活の中で「助け合い」「協力」という言葉の意味を感じる場面が多く「地域の絆」を感じるすることができます。

子どもたちは、素直で純朴、そして明るいです。未就学児から中学生まで、発達段階の異なる子どもたちに一度に接する機会はそうおおくはないので「教育」を考える上で、とても貴重な経験になります。

ほぼマンツーマンで指導に当たることができ自分の取り組みの成果がそのまま子どもたちに反映されます。この経験は「指導力」を高めてくれるものになります。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

離島への赴任は当たり前のことですが、やはり不安はあるでしょう。しかしここには、県本土ではなかなか味わえない「温かさ」や「絆」があります。島を離れた高校生や大学生、社会人が帰省した時、初対面にも拘わらず「先生」と声をかけてくれます。

また、自分の指導法を振り返る良い機会にもなります。「一人の大人」として「一人の教師」として自分を成長させてくれる悪石島で教鞭をとってみませんか。